

トップ インタビュー

「令和時代のゲーム・チェンジャーを目指して」 ～SAKE is Entertainment～

有限会社渡辺酒造店

代表取締役社長 **渡邊 久憲 氏**



渡邊 久憲 氏 プロフィール

1968年 生まれ
1994年 当社入社
2002年 取締役就任
2013年 代表取締役社長就任
趣味：筋トレ、ジャズ、パワースポット巡り

有限会社渡辺酒造店 会社概要

本社所在地：岐阜県飛騨市古川町吉之町7番7号
事業内容：「蓬萊」をはじめとする清酒の製造・販売
創業年月：1870年10月（設立年月：1954年9月）
資本金：30百万円
売上高：1,053百万円
従業員数：43名



●インタビューー

名古屋中小企業投資育成株式会社
専務取締役 五十嵐 健二



※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、リモート形式でインタビューを行いました。

【五十嵐】御社は、18年連続でモンドセレクション最高金賞を受賞し、ANAファーストクラスの採用酒に選ばれた「蓬萊」をはじめとする清酒の製造・販売をしています。渡邊社長が就任した2013年からわずか5年での売上倍増。その最大の要因である非常にユニークなマーケティング手法は常に話題を提供し続けています。ファンを増やし続けている御社の今後についてじっくりお話を伺いたいと思います。まずは、御社の沿革、事業内容について教えてください。



【渡邊】当社は、岐阜県飛騨古川市、明治3年（1870年）10月に創業した151年の歴史を持つ蔵元で、私は、9代目当主になります。享保17年（1732年）に渡邊家の初代久右衛門が当地で「荒城屋」の屋号で業を起こし、3代目久右衛門が両替業を始めるとともに生糸を製造して、京都に販売し、産を成しました。

記録によると、渡邊家が酒造りを始めたのは、明治3年（1870年）、5代目久右衛門章でした。生糸の商いで京都を旅した折に口にした酒の旨さが忘れられず、自ら居する飛騨古川に酒蔵を構え、旨い酒をとの一心で酒造りを始めました。出来上がった酒は至極好評となり、酒を愛でる宴で謡曲を謡いながら、「えもいわれぬ、珠玉のしづくに酔った」と記されています。

その時、謡曲「鶴亀」で謡われた一節から、当社の代表銘柄となっている「蓬萊」を銘柄として選びました。「蓬萊」とは仙人が住むと云われる不老長寿の桃源郷であり、人々に慶びを

与え、開運をもたらす縁起の良い「酒言葉」でもあります。

それぞれの酒蔵には「追い求めるもの」があります。私たちは「日本で一番笑顔が溢れる蔵」を旗印に「古式酒造法の伝統を守りながらも、時代の最先端を進む“宇宙戦艦ヤマト”のような酒蔵」でありたいと考えています。



〈本社外観〉

《経営危機での気づき》

【五十嵐】渡邊社長の就任当初のお話をお聞かせ下さい。

【渡邊】2000年に酒類販売業免許の自由化により、量販店がこぞって地元商圈へ参入した頃、私は先代から経営を託されました。自由化の影響は大きく、当社の売上は大幅に減少し、1999年に4億1千万円あった売上高は2年後には2億3千万円にまで落ち込みました。

私はこの経営危機の要因がお客様が求めているものを見失っていたことにあると考え、「お客様が求めているもの」を知るために、飛騨を訪れる観光客に注目しました。ひとり駅前に立ち、手書きで作成した「蔵元のインタビュー形式チラシ」「おすすめ町歩きマップ」

に当社の酒についてのアンケートを同封し、観光客に配りました。

お客様と直接のつながりを重視するというのは、当社の急成長の根幹になります。地道なことからスタートしましたが、顧客リストが1万を超えたあたりから県外からの問い合わせが増え、現在では、消費者へのダイレクト通販の比率は、当社の売上の3割を占めるに至りました。これは酒蔵としてはトップクラスです。

そこで分かったことがあります。日本酒を味わう目的は美味しさの先にある楽しさだということです。私は「日本酒を面白くし、お客様が喜ぶ顔、驚く顔を徹底的に追及する」という企業理念のもと、お客様にとにかく喜んでもらい、当社のファンを増やしていきたいと思っています。

【五十嵐】その集大成のイベントが「蔵まつり」になるわけですね。

【渡邊】当初は、「わざわざ遠い飛騨の酒蔵に来てくれるはずがない」と周囲のほとんどが否定的でしたが、「日本酒をエンタテインメントとして楽しむ」という当社の想いを実現したものとなっています。

来場されるお客様に「もっと気軽に日本酒を体験していただきたい!」そんな思いから、当社のすべての種類のお酒を無料で試飲できるようにしたことに加え、酒粕詰め放題等食のイベントを行ったり、吉本興行の芸人によるお笑いライブを開催するなど、お酒だけでなく、お客様に笑顔をお届けしています。

2007年に始めた当初は、わずか300人程度の参加者でしたが、口コミで広まり次第に増えていきました。いまでは全国から2日間で約1万5千人が参加する飛騨の一大イベントと

なっています。



〈2019年蔵まつりの様子〉

《酒造りへのこだわり》

【五十嵐】御社の商品開発について教えてください。

【渡邊】商品開発で心掛けているのは、造り手が造りたいものではなく、本当に求められている味わいを造るということです。お客様の声を分析した結果、「消費者は辛口を求めている」という常識とは正反對で、「味わい深い旨口が求められている」ことが分かりました。そこから「蔵元の隠し酒」が生まれ、ベストセラー商品となり、今では当社の中核をなすお酒となっています。また、日本酒は冷蔵



保管が基本です。しかし、お客様の「常温で保存が効いてオンザロックでおいしく飲めるお酒が欲しい」という声から生まれたのが「ガリガリ氷原酒」というオンザロック酒です。美味しさを生み出すために生産体制の改革にも取り組みました。原料はすべて酒造好適米を使用。搾った酒はフレッシュな香味を保つため、氷温貯蔵しています。



〈酒造りの様子①〉

また、自動洗米浸漬装置、ウエイト式充填設備等の最先端の設備を導入することで、人の感覚に頼った酒造りから数値を重視した酒造りへと大きくシフトチェンジを行ない、その結果、新卒社員が酒造経験20年の職人と同等の技能を1ヵ月で習得できるようになりました。



〈酒造りの様子②〉

国際的なコンクールにも積極的に出品しており、当社の入賞回数は毎年50回を超えています。コンクールへの出品は社員全員が常に高い品質を目指すという動機付けにもなっています。



〈コンクール入賞トロフィー〉

《コロナ禍という前代未聞の逆風をバネに》

【五十嵐】 コロナ前の飛騨地区は、観光業が盛んでインバウンドも含めて人が溢れておりました。そのような状況がコロナで激変し、飛騨地区のサービス業は大変厳しい状況となっています。御社への影響はいかがでしょうか。

【渡邊】 コロナ禍により、飛騨エリアの観光、飲食、イベントの市場は激減し、蔵まつりは2年連続で中止を余儀なくされました。当社もコロナの影響により、出張しての営業は不可能になりました。このような状況下で、事業モデルの転換を決意し、営業のDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進しました。加えて、集客活動のデジタル化を目的としたMA(マーケティングオートメーション)の導入を決めました。

【五十嵐】 営業とマーケティングのデジタル化とは具体的にどのように取り組まれているのでしょうか。

【渡邊】 2020年8月に開催した第1回オンライン展示会では、3日間で100名を超える全国の酒販店、卸問屋、GMS(総合スーパー)のバイヤーが参加しました。結果として、オンライン展示会限定の純米大吟醸5千本が2日で完売という異常な売上を記録しました。営業をオンラインに切り替えたことで、「コロナで会えなくなった」のではなく、「コロナで会えるようになった」のです。

また、インフルエンサーに商品を提供してインスタグラムに投稿してもらう「アンバサダー作戦」を開始しました。ITツールに疎い営業社員には、営業時間内に学習時間を設定し、ITツール活用のスキルを底上げするとともに、対

面の営業機会が減少した分、動画作成スタッフの増員を行いました。



〈Instagramアンバサダー〉

《当社の目指す道》

【五十嵐】これだけ歴史がある企業で過去からのやり方を変えようというのは抵抗が大きかったのではないのでしょうか。従業員の方からの反応はどのようなものだったのでしょうか。

【渡邊】渡辺酒造店は、創業から151年経ちますが、環境の変化に対応していかなければ生き残っていきません。『生き残るのは変化に対応できるもの』私はこの言葉を大切にしています。今までの成果として、外部から渡辺酒造店はユニークなことをやっていると評されることも多くなりました。

様々な業界で既存の価値や秩序を破壊するゲーム・チェンジャーが登場してきている中で、当社が酒造業界における「令和時代のゲーム・チェンジャー」になっていかなければならないことを社員に伝えています。

【五十嵐】今後の御社のビジョンについて教えてください。

【渡邊】当社のビジョンは、「日本酒のワンダーランド」を飛騨の地につくることです。

お酒が育まれた飛騨の土地を散策しながら酒造の歴史と文化を知ってもらうため、オーガニック野菜をふんだんに使用した郷土料理とお酒のペアリングの体験や酒蔵ラグジュアリーホテルでゆったりと過ごす時間を提供できればと思います。

世界の方々に飛騨の地ならではの「日本酒を心から楽しむという体験」をして頂きたいのです。そして、世界中に日本酒ファンを作り、いつの日にか「日本酒がワインを超越すること」が私の夢です。

【五十嵐】岐阜の渡辺から、日本の渡辺、そして、世界の渡辺酒造店へ向けて社長の夢が実現することを期待しております。本日はありがとうございました。



〈小町桜IWC受賞記念集合写真〉